



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



県家畜共進会で優秀賞を受賞した「かりゆし」
(2009年)



妻の衣津美さんと二人三脚で家業を守る



県家畜共進会で優秀賞を受賞した「さくら」
(2010年)



天気の良い日は外でのんびり過ごす牛たち

日本一の味と肉質の

但馬牛を守り続ける元気人

今では希少系統となった城崎系但馬牛にこだわり、遺伝的多様性を守るために試行錯誤を繰り返す元気な男性を紹介します。

谷口正徳さん(50歳)目坂

但馬牛の歴史は古く、古事記に「天日槍が朝鮮から牛を伴って日本に渡来し、但馬出石に住みついた」と記されています。また、戦国時代には、豊臣秀吉が大坂城築城の際に、全国から集まった牛の中で、一番ねばり強く従順で優れた役能力を持つ但馬牛に一日武士の身分を与え褒めたたえたといわれています。

人々と共に暮らしてきた牛

「この地域では、みな牛と共に暮らしてきました。牛は人・地域と密着し、コミュニケーションの一翼を担っていました」と話すのは、北但和牛部会豊岡支部長の谷口正徳さん。谷口さんは、2代続く但馬牛の繁殖農家として、現在、母牛を含め36頭の牛を飼育しています。

但馬牛とは、但馬産黒毛和種のことで、松阪牛をはじめ神戸牛、近江牛などの和牛の8割以上の素牛となつています。但馬牛の優れた特質は、但馬の厳しい自然環境と風土に培われ、他府県産の血を入れない「閉鎖育種」で、改良に改良を重ねて受け継がれた優良な血統から生み出されています。

ます。系統としては「中土井系、熊波系、城崎系」があり、これらの遺伝的特質を保持することで多様性に富んだ但馬牛が生まれています。

城崎系にこだわる理由

「特に優れた牛の血統を蔓牛と言いますが、『よしづる』に代表される城崎系但馬牛は希少系統となっています。小柄で背筋がピンとしており、経済性・連産性に優れています。近交(血縁の交配)を避けるためにも城崎系を守り、先代の努力を伝えたいですね」と谷口さんは力を込めます。

豊岡唯一の家畜人工授精師として

繁殖農家である谷口さんは、母牛を飼育し人工的に種付けして出産させ、約8カ月で出荷しています。牛の発情期は1カ月(21日周期)に1〜2日。この間に人工授精をする必要があるため、人工授精師の谷口さんは、他の農家からの急な呼び出しにも対応しなければなりません。「繁殖農家は1年1産(1年に1頭生ませる)を目標にしているため、タイミングを逃さないようにしています」と谷口さんは笑います。



▲牛に愛情を注ぐ谷口さん

但馬牛のおいしさの秘密

但馬牛は、筋肉の中に脂肪が霜降り状に「サシ」として入り込み、熱を加えたときや舌の上で溶けて特有の「うまみ」となります。但馬牛はこの「サシ」が常温で溶けるほど融点が高いため、さっぱりしていて舌の上でとろけるのが特徴。まさに「日本人に一番合った牛肉」といえます。

「種」を守り育てる

「牛は愛情を掛ければ掛けるほどいい子に育ちます。かわいがって撫でてやるのが大切です」と話す谷口さん。「城崎系の特色を残した、魅力ある牛を作りたいですね。まずは、来年秋に開催される全国和牛能力共進会(別名)和牛のオリンピック」へ豊岡生まれの城崎系和牛の出品を目標に頑張ります」と話す谷口さんの言葉には、「種」の保存という使命を受け継ぐ者の責任感が溢れていました。

※但馬牛は、生体は「たじまうし」と読み、肉になると「たじまぎゅう」と読みます。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

21

中筋幼稚園

(豊岡)

〈園児14人〉



中筋幼稚園は、園庭に芝生が敷き詰められ、芝の管理のためのスプリンクラーがまわって涼しそうです。

9月8日、運動会の練習が中筋小学校グラウンドで行われましたので、その様子をのぞいてみました。

本番に向けて

今日はとても良い天気で、絶好の練習日です。

本番さながらに、入場するシーンから始めます。入場行進では、2列に並んで隣の園児と歩幅、スピードを合わせ、手と足を大きく振って行進します。



芝生の上で

徒競走では、自分の走るレーンに並び、名前を呼ばれたら大きな声で返事をします。

芝生の上ではだしで走る園児たちはとても気持ち良さそうです。みんなゴールまで一生懸命走り切りました。

走り終え、「楽しく走れたあ」、「芝生の上を走って気持ち良かった」、「もう1回走りたい」など感想はいろいろ。また「〇〇



くん、〇〇ちゃん、頑張れー」とほかの園児を応援する声も元氣いっぱいでした。

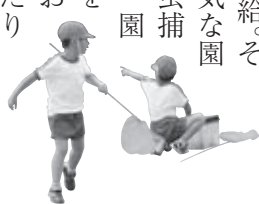
本番が楽しみ

先生から「今日はとても格好良かったです」と褒められると、園児たちはうれしうでした。

本番では、徒競走の他にも親子演技や小学1〜3年生とのダンスもあり、とても楽しかったです。

練習後も

練習を終えると、園舎に戻って、水分補給。その後、元氣な園児たちは、虫捕りをしたり、園舎内で絵本を読んだり、お絵描きをしたりと好きなことをして楽しんでいました。



顔輪笑の

「和の美」を着こなしたい!

合橋着付け倶楽部(但東)

普段から和服を着る機会も、着て出掛けることも少なくなっている現代。

毎月2回(第2木曜・第4水曜日)、合橋地区公民館で活動する合橋着付け倶楽部は、公民館主催の教室がきっかけで発足しました。当初3人だった部員も「着方を見せ合い、意見を言い合える仲間が欲しい」と知人らに声を掛け、現在では7人の女性が、講師の元で着付けをしています。

代表の宮嶋まゆみさんは「着物は、着方を知っていても、なかなか着こなせないようです。やはり着物は『見た目』に美しく『着たい』ので、月2回の活動にも力が入ります」と話します。

習えば習うほどさらにその奥を知りたくなる、それが着物の魅力。以前「文化祭の劇で着物を着せてほしい」と中学校から頼まれたときには、中学生もとても喜んでくれ、演技もパワーアップしたそうです。

また、せっかくだからと、子どもの入学式や卒業式に着物で出席する方もいます。着付けを習いたい方なら歓迎します。「着物を着たい、でも」という方も、一度、この倶楽部で着付けを体験してみては?

入会希望は、宮嶋さんまで。
☎ 54-10429



▲慣れれば一人でも上手に着られます

倶楽部では、自分たちで着物を着ることを楽しんでいきます。着物の知識が全くない方でも一通り着られると「私でもできた。うれしい!」と喜びもひとしおです。